

令和4年度第1回防災プロジェクト会議

日 時	令和4年9月6日（火） 午後2:00～午後4:00
書 記	厚木市障がい者基幹相談支援センター
場 所	アミューあつぎ 606
出席者	民生委員・児童委員、防災関係者、厚木市社会福祉協議会 あつぎ災害ボランティアネットワーク、(有) いいつか生活介護 ajito (特非) ゆうかり障害者地域活動支援センターレザミ工芸 (社福) すぎな会生活ホーム、厚木市障がい福祉課、 厚木市障がい者基幹相談支援センター

1. 開会

総合司会 厚木市障がい者基幹相談支援センター

・資料確認

(次第、名簿、令和3年度第1回防災プロジェクト会議録、事業計画、経過報告資料、
神奈川工科大学連携災害ケア研究センター資料、
地域連携災害ケア研究センターミーティング議事録、
厚木市避難行動要支援制度についての資料)

・委員挨拶

・令和4年度リーダー (社福)すぎな会生活ホーム 委員の承認を得る。

2. 議題

(1) プロジェクトの経過報告

(資料:プロジェクト経過報告資料、令和3年度第1回防災プロジェクト会議録、事業計画)

平成29年度

・荻野地区をモデル地区として要配慮者を中心とした避難訓練を実施。

平成30年度

・避難訓練の実施報告書を作成し、避難訓練実施報告会を開催。

令和元年度

・防災対策チェックリスト及び防災対策チェックリストの手引き、簡易版作成。

・支援者向研修

～災害の備えについて～ 講和、シェイクアウト訓練～

あつぎ災害ボランティアネットワーク

～災害に備えて自分たちができること～

自立生活センター

令和2年度

・防災対策チェックリスト及び防災対策チェックリストの手引き、簡易版完成

・啓発事業 きょうされん 「星に語りて」災害映画上映会

第2回防災プロジェクト会議開催中止(2月22日)

・防災対策の課題の共有と検討(書面にて)

令和3年度

・研修 令和3年8月4日 コロナ禍における災害対策

～要配慮者に対するケアを中心に～

主催:神奈川工科大学地域連携災害ケアセンター

神奈川工科大学地域貢献センター(協力:厚木市)

令和3年9月7日 防災・災害ケア基礎講座(公開講座)

主催:神奈川工科大学地域連携災害ケアセンター

共催:厚木市大学連携・協働協議会

第1回防災プロジェクト会議中止(9月15日)

第1回防災プロジェクト会議開催(1月18日)

令和3年度については、令和2年度に引き続き防災対策チェックリストの周知について検討。

- ① 防災対策チェックリストの手引きの改定に伴い、市内全障害福祉サービス事業所にメールで防災対策チェックリスト手引きについて周知。
- ② 指定避難所で過ごすことの出来ない場合、協定施設を利用させていただくため、全協定施設に防災対策チェックリストを配架。
- ③ 民生委員が障がい者と関わる中で、防災対策チェックリストが必要な時には、民生委員が公民館に取りに行くという流れで周知。
- ④ 障がい者が地域の防災訓練に参加しやすくするためにはどうしたら良いか、障がい者と地域の繋がりを作るためにはどうしたら良いかについて検討。

令和4年度

- ・会議 令和4年5月11日
神奈川工科大学と厚木市防災プロジェクトの意見交換会
 - ・会議 令和4年6月17日
地域連携災害ケア研究センター（地域機関との拡大）ミーティング
～ 要配慮者を取り残さない災害ケアに向けて（報告）～
- 第1回防災プロジェクト会議（9月6日）開催

(2) 今後の取り組み内容について

(神奈川工科大学地域連携災害ケア研究センターについて)

厚木市障がい者基幹相談支援センター

(資料：神奈川工科大学地域連携災害ケア研究センター資料、
地域連携災害ケア研究センターミーティング議事録)

5月11日、6月17日に神奈川工科大学に伺って、意見交換と災害ミーティングに参加した。意見交換の方では、神奈川工科大学に元々地域連携災害ケア研究センターを立ち上げていて、大学として地域貢献をしていく中で、災害に関して力を入れて取り組んでいる。災害の事であれば、大学として協力をしていきたいと話があった。元々、防災プロジェクトに関わっていた厚木精華園の職員が退職し、地域連携災害ケア研究センターで働いている。そんな縁もあるので、防災プロジェクトに声をかけてもらえた。年度初めに協力依頼があった。

6月17日は、神奈川工科大学の研究発表に呼ばれた。行政無線の音の伝わりかたの研究や看護学科では、災害ハグを行い、学生に災害教育を行ったと報告があった。大学としてオーダーしていただければ、いろいろな事が協力できると言っていたので、このあと是非ご意見を頂きたい。

議事進行 (社福) すぎな会生活ホーム

(3) 意見交換

○障がい者が地域の防災訓練に参加しやすくなるための取り組みについて

厚木市障がい福祉課

防災意識を高めるための防災訓練の取り組みとして以前、防災プロジェクトで地域の身近なイベントに参加し、自治会に慣れてもらって、最終的には地域の防災訓練に参加してもらえば良いと言った取り組みを考えていたが、コロナ禍でイベントは中止。そもそもどこでどういう防災訓練をしているのかよくわからないと言った意見があった。厚木市の防災訓練は、9月4日(日)に行われた。本来だと防災訓練の行われる前に防災プロジェクトで直接案内できれば良かったが出来なかったのが、地域の防災計画を周知させて頂いたところである。実施状況は、予定の段階で216自治会中179自治会が実施予定、21自治会が中止、16自治会が延期である。

・防災関係者

216自治会中179自治会が実施予定と話があったが、鳶尾地区では、29自治会中26自治会が実施すると聞いているのでたぶん行ったと思うが内容はわからない。私の地区である鳶尾4丁目でも計画は、7月の初めで100名位の参加で予定をしていたが、実際、9月4日は49名の参加であった。その中には、障がい者のグループホーム厚木精華園、ソシオ、野百合園があり、野百合園の利用者男性2名、女性1名が参加した。昨年度は感染が拡大した1月に防災訓練を実施し60名の参加であった。今回も感染が拡大しているので、縮小して防災訓練を行って欲しいと危機管理課から書面が届いた。

9月4日当日は、看護師による救護訓練とAEDの訓練を行った。前触れもなく、小林市長が現れて驚いた。

・障がい福祉課 (質問)

29年に防災プロジェクトで行った防災訓練以降、鳶尾地区の防災訓練で変えたところはあるのか。

・防災関係者

それ以降コロナが入ってきて、思うような行動はできなかった。今年になって、ハザードマップの全戸配布を頂いた。鳶尾山一帯が、危険区域に指定されている。昭和46年から鳶尾山が、県央地区としては、一番安全な場所として開発され安心して住んでいたが、江戸時代に鳶尾3丁目と4丁目の堺で土砂災害が起きたという過去の歴史がある。412号線の運動公園に入る前のガソリンスタンドまで鳶尾山の土砂が、7、8m位堆積している。

ハザードマップを配布するのは良いが、中長期的にどう対策をするのか市長に投げ掛けている。予算をしっかりと付けてもらい、住んでいる住民にとって安心感が持てるように、市には、対策を実行してもらいたい。

・厚木市社会福祉協議会

社協は、災害時に災害ボランティアセンターを立ち上げることになっているので、9月4日は、災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練を行った。

今年の6月には、運営側として登録されている24名のボランティアにステップアップ研修(簡易訓練とグループワーク)を行い、災害ボランティアセンターの知識を深めた。また11月には、新たに災害ボランティアの運営スタッフとして登録した方向けの研修を予定している。

地域の状況では、小鮎地区を担当している。自治会長、民生委員、ボランティアを対象に危機管理課を招いて、ハザードマップの研修を行った。

・民生委員・児童委員

及川地区だが、防災訓練を行う情報だけで、どういう状況で行うのかは何もない。自治会の役員さんだけで、防災訓練を行ったと聞いているだけである。報告もない。

・(有) いいつか生活介護 ajito

通所の事業所なので、年に2回は、避難訓練を行っている。今年は、9月に末に行う予定である。自治会の防災訓練はなかなかわからない。事業所で行う避難訓練は、『利用者が火事です』と叫ぶので、事前に地域にお知らせをしているが、自治会と一緒に訓練を行うところまでは、至っていない。

・(特非) ゆうかり障害者地域活動支援センターレザミ工芸

事業所の避難訓練としては、まだ実施していない。ネットワーク会議の時に、自治会の防災訓練に参加する話をしたが、今年も避難訓練が計画にないという事だったので、今後は声をかけて欲しいと話をした。

コロナ禍でない時は、事業所の避難訓練として地域の人を含めて必ず行っていたが、コロナ禍のため令和3年度は、防災プロジェクトの事務局から講師を派遣してもらい災害が起きたらどう対応していくのかの研修を行った。その時は理解しても実際災害が起きたら対応できるのかと思う。

避難訓練と言っても、カードを玄関のポストに入れるという回覧が事前にまわり、10時半から訓練を行うというだけで、誰がどうするのかわからなかったが『無事です』という意味のカードを玄関に下げた。アルファ米の炊き込みご飯を貰った。自治会の方針に会員が個々に行う感じである。3.11の東日本大震災を経験しているので、その教訓を忘れないように防災訓練は必要だと思っている。

・あつぎ災害ボランティアネットワーク

『今回は、コロナで防災訓練は中止にします』と回覧で回った。市内の自主防災隊の防災計画一覧が、ホームページで見られると防災プロジェクトの事務局から連絡を頂き、自分の地区を見たら調整中だった。自分は、災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練に行った。いろいろな場所で訓練を行うので毎年どうしたら上手くいくのか意見を出し合っている。

・(社福) すぎな会生活ホーム

愛名地区、谷戸地区、高坪地区にグループホームがあるが、愛名地区以外は、防災訓練は、行っている。すぎな会本体のある玉川地区、小野地区は、職員が代表して訓練に参加した。玉川中学校に避難をして水消火器とテント張りの訓練を行った。電気自動車から電気を引いて扇風機を回し、中学交のプールの水をろ過したと参加した職員から報告があった。

・防災関係者

地震の怖さは、体験した人を通して知るのとは、とても重要な事である。常に頭の片隅に地震が来るかも知れないと危機意識を持ってもらいたい。

○障がい者と地域の繋がりを作るためにはどうしたらよいか

厚木市障がい福祉課

地域のイベントに参加するための情報を簡単に紹介する。昨年までは、コロナの影響でイベントが、ほぼ中止だった。今年は、8月に鮎まつりが予定されていたが、11月5日に延期、8月26日ジャズナイト、10月30日厚木マラソン、11月12、13日厚木大道芸と規模の縮小はあるが、イベントが復活する流れにはなっている。

・(特非) ゆうかり障害者地域活動支援センターレザミ工芸

事業所のイベントの計画として大雑把な計画はあったとしても、それが実際にできるのか難しいところである。ここ2、3年コロナ禍で地域と交流が途絶えてしまって、みんなもそれに慣れてしまっている。いざ防災訓練を行ったとしても、自治会の人でも高齢化していることもあり、辞退する方もいる。中々、交流が出来ていない事が問題である。少しずつ交流を復活していき、いざと言う時に、協力出来たら良い。

・(有) いいづか生活介護 ajito

事業所のイベントのチラシを近隣の方に配布し、事業所で決まった時間の中で、販売会をすれば、地域の方も来てくれる。繋がりはあるが、実際そこで、職員や利用者が交流するかという買いに来るタイミングがあるので、交流まではいかない。

7月は唐揚げ屋、8月は知り合いにキッチンカーで、魚のフライ、チキンバーガー、かき氷の販売を提供してもらった。駐車場で行っていたので、地域の人が結構来てくれた。

・民生委員・児童委員

個人的には、自治会を含めて仲間に入れて欲しいという気持ちがある。避難行動で、『高齢者や障がい者の方に何かあったら、助けてあげてください』と言うが、避難訓練には、呼ばれない。『何かあったらどうするのか』と聞いても『わかりません』ではなく、もう少し、一緒に考える場を設けて欲しい。障がい者のところに訪問しても、対面で話すのは嫌だとか、関わり合うのがうっとおしいと言われて、『何しに来たんだよ』と門前払いされることもある。携帯電話で連絡をしても電話に出ない。ショートメールをしても返信がない。地域に繋がられないし、地域の人顔も見えて来ない。私達民生委員だけ、自治会だけではなく、地域で中学生や高校生もいるので、助けてもらえるような仕組みづくりがあると良い。

及川団地を担当して12年になるが、ほぼほぼ防災訓練の声がかからない。今回も回覧板が来たが、何を行うのか管轄しているのは誰なのか一切なくて、こちらから連絡して初めて、『民生委員は、来なくて良い』と言われた。大事な事は知らされないでいいと言うなら、民生委員は要らない。防災推進員がいるなら、その方たちで行えば良いと思ってしまう。

・(特非) ゆうかり障害者地域活動支援センターレザミ工芸

自治会員が班長になると、市の情報はたくさんもらえるが、地域の人たちは、会費を払っているけれど、回覧板が充分回っているのか、何かイベントがあると盛り上がっているのは、自治会である。新しい家が建つと自治会が何を行っているのかわからず、中々入っていかない。

・防災関係者

鳶尾地区は、400世帯、980人いる。障がい者のグループホームもある。厚木精華園の世話人を6年間した。利用者を世話しながら、感じた事は、利用者がホームから出たがらない。私は、明日にでも自分が障がいを負うかも知れないと自治会の中で、住民の方へ話をしていた。住民が利用者と話さなければいけないと思い、グループホームの職員の方が自治会に徐々に溶け込み、利用者も自治会に溶けこむ様な雰囲気作りをした。

地域との交流は一挙には出来ないの、お互いに接点を持って、心を一つにしなが自治体にしろ、高齢者にしろ、障がい者にしろ、一つの声掛けをしながら地域を守る。行政にPRしながら、意見交換の場を持ち、皆さんと一つでも二つでも愛を持って話すことで交流が深まると私は思っている。

・(社福) すぎな会生活ホーム

今話があった様に、グループホームは地域の方が世話人として入る事が結構ある。『この利用者は、歳なのよ。怖くないのよ。こうなのよ。』という事が地域に広がる事が理想的である。地域の方がグループホームに来てくれる事で、地域情報が入り、利用者の理解も広がる。

・防災関係者

利用者も世話人も同じ目線で見に行く事が大切だと私は思う。

○コロナ禍でもできる取り組みとして、避難行動要支援者名簿の対象にならない障がい者
防災について

障がい福祉課

(資料：厚木市避難行動要支援者制度について)

ここに書いてある方が対象であるが、対象者に当たらない方の防災についての検討である。以前から防災プロジェクトで、防災対策チェックリストの作成、周知を行ってはいるが、作成の手引きがあっても、実際に作成するのは難しい。冒頭でも話はあったが、神奈川工科大学が地域防災について力を入れているという事で、大学を見学させてもらった。教室、避難所、防災の備蓄を見学した。その中で、実際に地域の防災に力を入れるという観点で、防災対策チェックリストと一緒に作成してみないかという研修の提案を頂いた。場所や人を提供して頂けるという事であった。この研修についてのご意見を頂きたい。

厚木市基幹相談支援センター

委員の皆様の協力は可能か。コロナ禍の中でも、この研修なら、1回でも、2回でも行う事が可能かと考えている。急な話で申し訳ないが、皆様の承認が頂ければ、この研修を進めて行きたい。

・防災関係者

せっかく協力依頼を頂いたのだから、神奈川工科大学の知識や知恵を一つでも二つでも活かしていきたい。計画を立てて頂ければ、参加したい。

他の委員からも神奈川工科大学の協力を得ながら、研修を行う事への承認が得られた。

厚木市障がい福祉課

イメージとしては、最初に20、30分神川工科大学の施設見学をし、その後、教室を借りて、防災チェックリストに関する講義と実習を行い、その後、意見交換会が出来たら良いと考えている。参加をして頂く方に関しては、我々委員の他に事業所の利用者で来て頂ける方がいるのであれば、お願いしたい。今回は、広く周知せず、防災プロジェクト委員のクローズドな環境の中で行いたいと思っている。

厚木市基幹相談支援センター

日程の候補については、11月25日(金)か11月26日(土)。学校の先生に講演を頼むのなら、25日(金)の方が良い。13時半に現地集合で、車の駐車場は、大学に確保して頂く。各事業所4人までにして欲しい。

研修日程は、**11月25日(金)**で手配する。詳細については、令和4年10月11日(火)の第2回防災プロジェクト会議で報告、検討。防災について講演して頂きたい内容があれば、9月中に基幹まで連絡を頂きたい。

・(有) いいづか生活介護 ajito

車椅子用トレイを確認して欲しい。

(4) その他

障がい福祉課

民生委員の話に戻すが、その地域だけではなくて、他の民生委員も自治会長と組めないという話はあるのか。

・民生委員・児童委員

他の地区はないと思う。

避難行動要支援計画も対象者の作成リストは、及川地区は民生委員が個別に対象者を回っている。本来なら、自治会長と一緒に地域にこういう方がいるので顔を見ながらリストを作成しようというのが前提であるかと思うが、他の地域も中には自治会長と一緒に回っている民生委員もいるが、民生委員だけで回っているところもある。

・あつぎ災害ボランティアネットワーク

うちの母も書式に書いて提出したが、本人のところに、戻ってきていない。

・民生委員・児童委員

戻ってこないものである。民生委員はもらっているが、私たちだけで止まっているのだと思う。障がい者に関しては、その方の名前、連絡先が書いてあるのを持っているが、下手したら、10、20年以上前の書類がそのままという方が多くて、なかなか行く機会がない。どうやって行っていいかわからないと時々聞く。民生委員の会議の中では、居るだろうなという把握だけでいいのではないかというところで終わっている。寝たきりの方に『また、来るね』と言ったら、家族に『もう来なくていい』と言われる。『何かあったら、助けに来なければいけないし、顔なじみになっておきたい』と言ったら、『邪魔よ』と追い出されたこともあった。訪問するのは難しい。謝りながら、訪問する。あと言葉遣いも難しい。精神疾患の方で『お前の口の利き方はなっていない』と怒鳴られたり、道端で追い回されたりしたこともあるので、その辺を気をつけながら、なるべく地域に貢献できる様に回っている。コロナ禍で厳しいところもある。

・防災関係者

自治会長の立場として、理事会で民生委員が自治会長におんぶに抱っこであると言う意見が結構ある。行政もスリム化しなければいけないから、自分の身が結構大変である。自治会の事業処理から、テキパキとこなしていかなければいけない。割り振っていいものかどうか。行政にも職務内容を見直して欲しいと理事会で意見が出ている。人手不足の中で何とかやらなくてはならないし、副会長に手助けしてもらいながら行っている。悩んでいる事は、意見交換しながら、いい方向にしていきたい。意見交換は大事な事である。

議事進行 (社福) すぎな会生活ホーム

⇒ 総合司会 厚木市障がい者基幹相談支援センター

3. 閉会

以 上